





将来の建設業の担い手を育成するために、建設業に関するさまざまな要素（タネ）を提供する。
以下に、『未来へのタネまき』プロジェクトとして、建設業界にふれるための5つの要素について、具体例を示す。
これらの5つの要素によって、建設業界に対するイメージが定着してしまう前に建設業界に対する魅力を知ってもらい、興味・関心を持ってもらう。

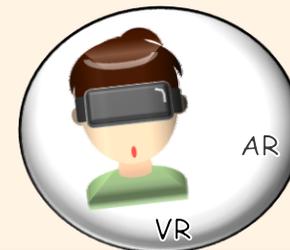
● スマホ（SNS・動画配信・アプリ等）



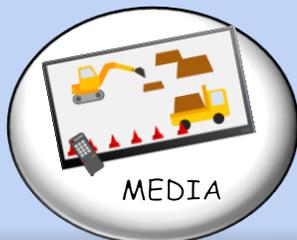
現代に広く普及している**スマートフォン**を活用し、若い世代に向けて建設業の魅力を発信する。
また、最先端の技術を用いたリアリティ溢れるアプリを通じて、ものづくりの楽しさ、建築の魅力を体験する。その他、動画配信サービスなどを利用し、積極的に建築に関する**情報配信**を行うことで、より簡単に誰でも建築に触れられるような環境を整備する。

- SNS（Facebook、Instagram、Twitterなど）を活用し、様々な情報を発信
- 建設業界PR動画を製作し、Youtube等で配信
- 建設業や建築物を身近に感じられるようなアプリを製作
 - ARやVR技術を用い、名建築を疑似体験することができるアプリ
 - 多様な重機を操作して、建物や都市をつくる体験ゲーム
 - 世界の有名建築をコレクションして戦うソーシャルゲーム

など



● メディア化



建設業を題材とした**TVドラマ**、**映画**、**アニメ**、ヒーロー特撮などを製作し、広い世代に向けて建設業界のカッコよさ、面白さ、やりがいを知ってもらう。
3K（きつい・汚い・危険）のイメージを払拭する。
憧れと希望にあふれる業界であることを伝える。

- フリーター家を建てる
- 重機戦隊タテルンジャー
- いま、建てにゆきます
- 職人チャンピオン決定戦

など

体験

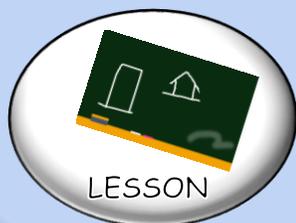


テーマパークや職業体験場を通じ、建設現場での仕事や最先端の技術を実際に体験することで、建設業界とは、どのような業界なのかといった興味・関心を持つきっかけを提供する。また、建設現場における様々な職種についても知るきっかけを与える。

- ドローンによる測量体験、写真撮影
- パワーアシストを使った工事・作業体験
- MR（複合現実）を使った最新の施工技術の体験

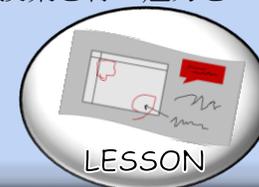


教育



実際の建設現場を通じて、テーマパークとは違った、現場の雰囲気やさまざまな職人の働く姿を見ることで現実的なイメージを持つことができる。また、就職前後でのイメージのギャップを無くすことで、離職率の低減を図る。その他、ゼネコンや市の職員が、学校で建設業に関する授業を行い魅力を伝える。

- 工事体験（左官体験など）を通じて、ものづくりの魅力を伝える
- 安全対策などの重要性を伝える
- VR（仮想現実）を使用した災害体験



ダイバーシティ



実際に建設業界で働く女性職員との交流する機会を積極的に設け、建設業に対する魅力や女性が活躍できる業界であることを知ってもらう。また、建設現場で改善されつつある職場環境を知ること、建設業界に対するイメージが定着する前に多様な人材が必要とされている業界であることを伝える。

- 女性用作業着の充実
- 女性用トイレ・化粧室の充実
- 安全看板の多言語表記